

企業探訪

TOP INTERVIEW

株式会社エディファミリー

代表取締役社長 荻原 武 氏



株式会社筑波銀行
水戸営業部長 木梨 正之

株式会社エディファミリー
代表取締役社長 荻原 武 氏

筑波総研株式会社
代表取締役社長 木村 伊知郎

関わる全ての人たちと
明るく家庭的な関係を築き、
大きな安心の和を、無限に広げていく会社

本 社：茨城県水戸市千波町 1935 番地の 1
創 業：1966 年
従業員数：176 名（2023 年 2 月末現在）
事業概要：冠婚葬祭互助会業、葬祭事業、介護用品販売業、
福祉用具レンタル業、保険代理店業、
自然エネルギー等による発電事業

インタビュー日：2023 年 2 月 24 日
〔聞き手：筑波総研(株) 代表取締役社長 木村伊知郎〕
取引支店：(株)筑波銀行 水戸営業部

貸衣裳店から冠婚葬祭互助会事業へ 13のセレモニーホールを保有する 地域になくはない会社

貴社の創業のきっかけ、これまでの歴史について
お聞かせください。

当社の歴史は、1966年に父荻原康一が水戸市で貸衣裳店ともえやを創業したことに始まります。創業前、父は千葉県内で婚礼の貸衣裳事業を行っていた父の兄の手伝いをしていましたが、その会社が軌道に乗った頃に独立し、水戸に店舗を構えました。

創業時の店舗は南町商店街の2本裏の通り沿いにありましたが、すぐに梅香に移転し、翌年には法人化して(有)ともえやとなりました。当時は貸衣裳事業のみでしたが、ちょうど互助会が全国で急増していた時期でしたので、1974年に前払式特定取引業の許可を取得し、冠婚葬祭互助会（以下、互助会）事業を開始しました。

その後、(株)天元を設立、総合結婚式場水戸サンシャイン常陽（現フェリヴェールサンシャイン）をオープンし、婚礼事業を開始しました。また、(株)富士祭典を設立、葬祭事業へ進出すると、セレモニア富士勝田稲田館を皮切りに、水戸、勝田、東海、日立に6つのセレモニーホールを開設しました。この間、(有)ともえやは、茨城ともえ互助会(有)、(株)エディファミリーへと社名変更と組織変更を重ねました。

2002年に(株)富士祭典を(株)エディファミリーに吸収し、その後もセレモニーホールや家族葬ホールをオープンする等、葬祭事業は拡大し続けており、現在では13のセレモニーホール、2つの家族葬ホールのほか、法事会館を保有し、日々、お客様のご葬儀、ご供養に対応しています。

一方、婚礼事業は、ウェディング複合施設やウェディングゲストハウス等を開設しましたが、2018年までに全て撤退しました。そのため現在の当社の婚礼事業は、当社が保有するフェリヴェールサンシャインの運営を外部委託し、婚礼衣裳部門を他社との業務提携としています。



これまでの歴史を語る荻原社長



取材時の様子



セレモニア富士 50号バイパス館（株）エディファミリー本社



本社内の様子

相互扶助の願いを込めて誕生した互助会

互助会の歴史や安全性について教えてください。

互助会とは、加入者が毎月一定額を積み立てることで、結婚式や葬儀などの冠婚葬祭儀式が経済的に行える会員制のシステムです。戦後の物不足の時代に、大きな支出が必要となる冠婚葬祭の費用を積み立て、相互に助け合うことを目的として始まりました。

互助会は、1965年頃から全国的に増えていきましたが、当時は何の規制もありませんでした。そのため、消費者保護の観点から、1972年に割賦販売法の規制・監督を受けることとなり、翌年3月には、受領している前受金の2分の1を保全することが義務付けられました。その結果、現在の互助会事業は、法律的にも社会的地位が確保され、消費者にご安心いただける内容となっています。

前受金の保全方法について教えてください。

互助会の前受金の保全方法は、以下の何れかです。

- ①法務局に供託する。
- ②経済産業大臣の指定する者（指定受託機関（保証会社））と供託委託契約を結ぶ。
- ③銀行又は信託会社その他法令で定める金融機関と供託委託契約を結ぶ。

当社がお預かりしている前受金は、1973年2月に前受金の保証会社として設立された互助会保証㈱に保全してもらっています。

県内最大の互助会、約9万5千口の会員数を持つ

茨城県内の互助会について教えてください。

茨城県に本社を置く互助会は3社です。当社（本社：水戸市）のほか、北茨城市と下妻市に1社ずつあります。そのほか、県外に本社がある大手互助会等を含めると、茨城県内では10社以上が競合しています。その中で、当社の互助会は最も多くの会員数を持ち、現在、約9万5千口、約98億5千万円の前受金をお預かりしています。



大規模祭壇例

コロナ禍で、人を呼ばない葬儀が増加

コロナ禍での葬儀はどのような状態でしたか。売上への影響などもお聞かせください。

請負葬儀施行件数自体はコロナ前とほとんど変わりありませんでしたが、2020年3月に茨城県内で最初の感染者が出ると、いつどこで感染するかわからないという不安が広がる中、ご遺族も葬儀に来てくださった方々に感染させてはいけないと、人を呼ばない近親者のみの葬儀やWEB葬儀等が急激に増えていきました。

当時は感染予防に対する知識が乏しかったこともあり、特に4月、5月、6月の3か月間は、当社の売り上げは大きく減少しました。

その後、国から「三密を避ける」等の予防策が発出されるようになると、その対応をした会葬形式が少しずつ増えていきましたが、ある程度安心して人を呼べる葬儀が行えるようになったのは、県内初の感染者が出てから半年ほど経過した9月頃だったと思います。コロナ初年度は、これまでにない厳しい年度でした。



家族葬祭壇例

社会情勢によって変わり続ける葬儀形態

今年の3月13日からマスクの着用は個人の判断に委ねられ、5月8日から新型コロナウイルスの分類は季節性インフルエンザ等と同じ「5類」に移行することが決まりました。今後、葬儀はどのように変化していくと思いますか。

少しずつ人を呼べるようになると、ご遺族も参列者も、もともと葬儀をして送ってあげたいという気持ちがあることから、焼香だけしてお帰りいただく「流れ焼香」や「事前焼香」などが全国で行われるようになりました。最近ではコロナが落ち着いてきたこともあり、だんだんと一般の葬儀に近い状態に戻ってきています。また、葬儀の日程についてもお悔やみ欄に掲載していただけるようになってきました。

5類に移行すると様々な制限は無くなりますが、葬儀の形態をコロナ前に戻すのは、様子を見ながらになると考えています。現在、当社の葬儀は椅子の間隔を1つ空けて行っていますが、マスク着用が任意になることを考えれば、やはりこのまま少し距離をとっておいた方が良いのではないかと思います。

今後も家族葬は増えていくのでしょうか。

コロナが落ち着きつつある現在でも、お悔やみ欄には「葬儀は近親者のみで執り行いました」という記載が頻繁に出ているため、葬儀は家族葬にしようとするご遺族は増えてきているように思いますし、今後も増えていくと思います。

このような状況からか、最近では「葬儀が小さく済んでリーズナブル」というような広告が様々な媒体から出ています。しかし、当社はこの流れに乗るつもりはありません。それというのも、1つのパターンで決めてしまうことは、ずっと昔から貫いてきた当社の基本スタイルから大きく反れてしまうからです。

故人はお一人おひとり違いますし、ご遺族の想いもそれぞれ違うため、パッケージ商品のようなもので決まった形にはめ込むことはできません。当社は、一般の葬儀でも家族葬でも、ご遺族の想いをくみ取りながら、一つひとつオリジナルで組み上げていく方法をとっています。



コロナ禍でWEB葬儀にも対応

故人とお別れの儀式である葬儀は 家族の特別な想いを大切にする

葬儀の内容はどのように組み上げていくのでしょうか。

葬儀は故人の最後の儀式であるため、当社にご遺族との最初の打ち合わせの際、「どんな方だったのですか」「どのようなことをされていたのですか」等と問いかけ、故人の人となりを知ることから始めています。

家族には、親が子どもを想う気持ち、子どもが親を慕う気持ちといった心と心のつながりがあります。私たち互助会事業を営むものは、お祝いごとでもお悔やみごとでも、そのご家族の特別な想いを大切にして、気持ちを込めた儀式でお手伝いしなければいけないと思っています。

これまでに施行させていただいた葬儀では、故人が好きだった花を祭壇に表現する、故人の趣味であったものを表現する、故人が好んだお酒を参列者にお配りする、故人の好物を参列者に口にしてもらう、そのようなことを行ったこともありました。



セレモニア富士 50号バイパス館 セレモニーホール入口

ご安置ホテルで住宅事情に対応

ご遺体を保管するホテルのような施設を建築中と伺いました。どのようなものなのかお聞かせください。

ご遺体の一時的な保管を目的とした霊安施設で、全国的には「遺体ホテル」や「安置ホテル」と呼ばれています。当社では、「ご安置HOTEL メモリア大宮」という名称で、常陸大宮市にもうじきオープンする予定です。

日本では、死後24時間経過するまでは火葬してはいけないことが法律で決まっています。そのため、ご逝去から葬儀までは通常2~3日程度を要しますが、ご遺体はそのままにしておくと傷んでしまいます。ご安置ホテルは、故人がご逝去された時から通夜・告別式を経て火葬を迎える時まで、温度を管理した適切な環境でお預かりできる施設です。

「全国的に…」ということは、**全国で増えているのでしょうか。**

全国のご遺体のお預かりが増えており、ご安置ホテルも少しずつできています。お預かりが増えた一番の要因は、ご自宅がマンションやアパートの場合、棺をエレベーターや階段で運ぶのが難しいという住宅事情にあると思います。また、いろいろな方が弔問に訪れるとすれば、部屋を綺麗にしておかなければなりません。そのため、管理できる施設に預けた方が、安心・安全と感ずるのではないのでしょうか。

貴社のご安置ホテルの内容や建築の経緯についてお聞かせください。

当社のご安置ホテルは、1体ずつ入る冷蔵庫形式で8体までお預かりすることができます。場所は常陸大宮市ですが、茨城県内の需要を賄う予定です。

もともとセレモニア富士 常陸大宮館だった所で、施設が老朽化していることから改修を考えていたのですが、大掛かりになるため、新築・移転を決めました。そのため、もとの場所をどう有効活用しようと考えている中で、お預かりのご要望が年々増加していたことから、当社だけではなく他の葬儀社のご遺体もお預かりできる施設を作ることになりました。



人形供養にも対応

故人を生前に近い姿で納棺する「旅立ちの儀」

映画「おくりびと」を観て、納棺師はとても凄方たちだと感じました。貴社にも同じような儀式があるのでしょうか。

日本ではご遺体を綺麗にする作業に、体液を入れ替えて腐敗しないようにするエンバーミング、お風呂に入れて清める「湯灌」、拭いて清める「古式湯灌」等があります。そのため、映画では「納棺師」ということばが使用されていましたが、「湯灌師」とも呼ばれています。

当社では以前、専用の車で伺って湯灌を行っていましたが、湯灌はご遺体を綺麗にしてあげられる反面、体液が出てくることがあり、故人が病気を患っていた場合など、その病気に感染する恐れがあります。また、使用したお湯をそのまま捨てて良いのかということもあり、とりやめた経緯があります。しかし、映画もあり、やはり故人を生前に近い姿にして、ご家族とお別れさせてあげたいと考えなおし、現在は古式湯灌をして、洋服を着せ替えて、お化粧をしたり髪をとかしたりして、身なりを整えて棺に納める「旅立ちの儀」を行っています。



他社を含めて、同エリアで一番最初にできたセレモニーホール
セレモニア富士 勝田稲田館 (写真は建て替え後の建物)

オリジナルの内容で パートナー会社に業務を委託

貴社は非常に女性が多い会社というイメージがあります。また、礼儀作法、焼香誘導の手際、祭壇のお花の美しい配置など全てが素晴らしく、貴社のスタッフは本当に優秀です。

会社全体で女性の割合は50%くらいなのですが、葬儀の中でお客さまを誘導するのも、ホールでお客さまのお世話をするのも、受付をするのも女性というように、現場でお客さまに接するスタッフのほとんどが女性のため、女性が多い会社と感ずるのではないのでしょうか。

スタッフが優秀だとお褒めいただけるのは、非常にありがたいことです。大切な儀式ですので、全てのスタッフには、身だしなみだけは気を付けるよう指示しています。

また、皆さんが見ておられる葬儀の現場スタッフには、当社従業員とそのサポートをするパートナー企業スタッフとが混在しています。つまり、部分的に外部委託をしています。そうは言っても単純に外部委託しているわけではなく、富士祭典専用で別会社を作ってもらったり、専用の部署を立ち上げてもらったりと、専属契約を結んでいます。

外部委託については、全て当社が考えたオリジナルの内容でパートナー会社に頼んで、当社の専属スタッフとして業務をしてもらっています。このように、当社が行う葬儀は、いくつかのパートナー会社と協力することで成り立っています。

搬送業務は2か所で 4チームが24時間待機

病院からご遺体を搬送される方々はどうですか。また、どのように待機されているのでしょうか。

搬送スタッフもパートナー会社の社員です。いつ、どこから依頼があるのかわからないため、毎日4チームが24時間体制で待機しています。1台の車に2人で1チームとし、3チームが水戸駅南の旧本社ビルに、1チームが日立多賀のサンプラザ近くに、それぞれ待機しています。



葬儀終了後、車による混雑が緩和できるように三方路に建てられた
セレモニア富士 50号バイパス館の駐車場

地域に無くてはならない企業となり 大きな安心の和を無限に広げていく

この50号バイパス館兼本社には備蓄倉庫があるようですが、どのようなものを備蓄されているのでしょうか。

東日本大震災の際、大洗町に住む社員が津波の影響で家に帰れず、数日間当社の駐車場に停めた車の中で過ごしました。そのため、今後災害があった場合には、被災者に避難場所を提供できればと考え、この50号バイパス館を建てる際には、ある程度の耐震性のある建物、広い空間を意識しました。また、人が数日間を過ごせるための水、暖をとるための毛布を用意し、さらに停電した場合でも不安を軽減できる灯りがとれるよう、屋上にソーラーパネルを設置して蓄電し、夜間小さい保安灯をつけています。

当社は互助会事業を営む者として、当社と関わる全ての人たちと、明るく家庭的な関係でありたい、地域のお客様とお互いに役立ち合う関係でありたいと願い、地域から信頼される企業を目指してきました。今後も当社を通じて大きな安心の和を広げていきたいと思っています。



災害時に灯りがとれるように太陽光パネルが設置されている
セレモニア富士 50号バイパス館 (㈱エディファミリー本社) 屋上